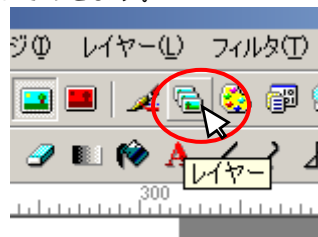


PictBear を使った影のつけ方

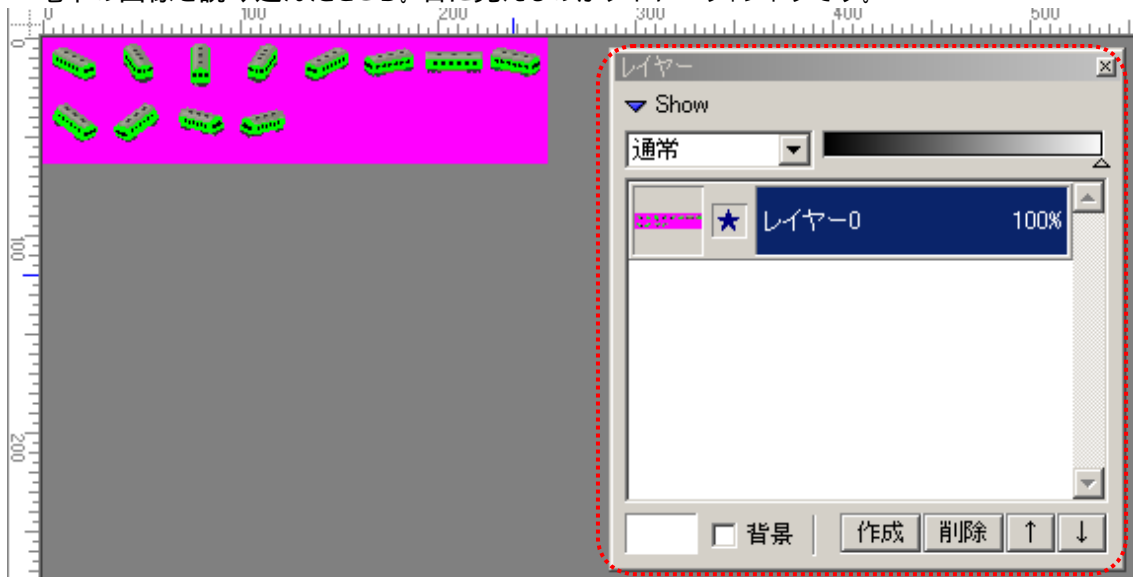
PictBear はフリーのペイントソフトです。以下の URL からダウンロードできます。

<http://www.forest.impress.co.jp/library/pictbear.html>

まずはレイヤーウィンドウを表示しておきます。



電車の画像を読み込んだところ。右に見えるのがレイヤーウィンドウです。



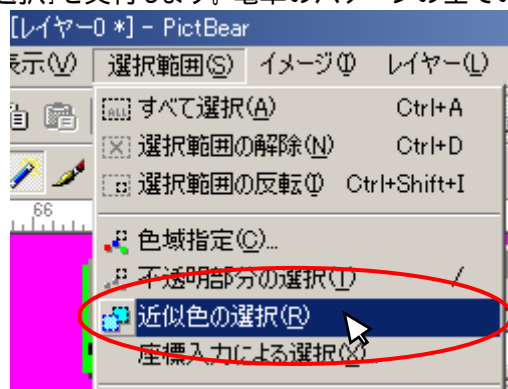
操作が解りやすいようルーペを使って適当に拡大しておきます。

自動選択ツールを使って、電車の窓の部分を選択します。

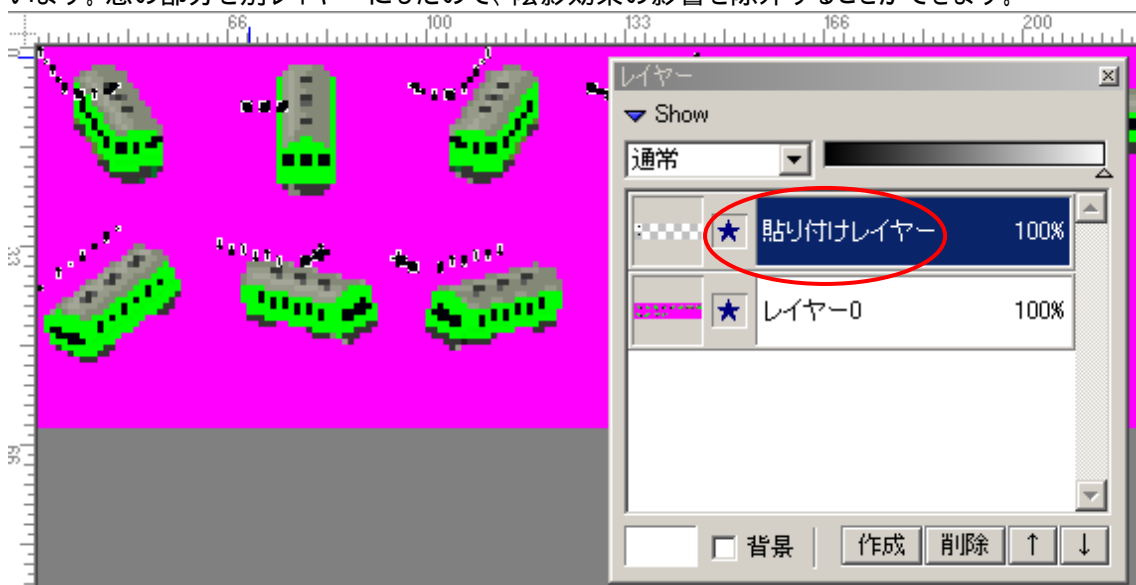


ここからは、電車の窓に陰影効果がかかると、RGB(0,8,0)や RGB(0,0,8)ではなくなってしまうため、影響を受けないようにするための操作です。

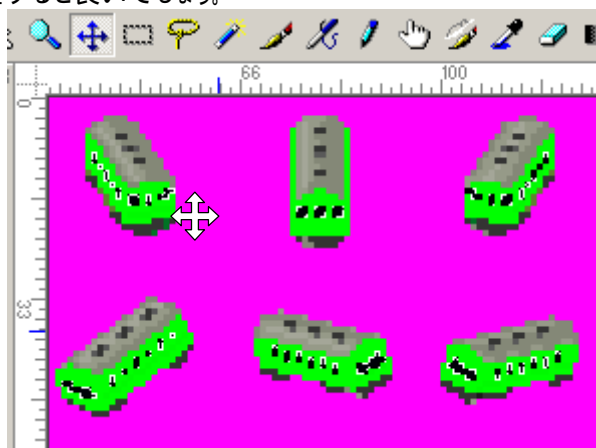
メニューから「近似色の選択」を実行します。電車のパターンすべての窓部分が選択されます。



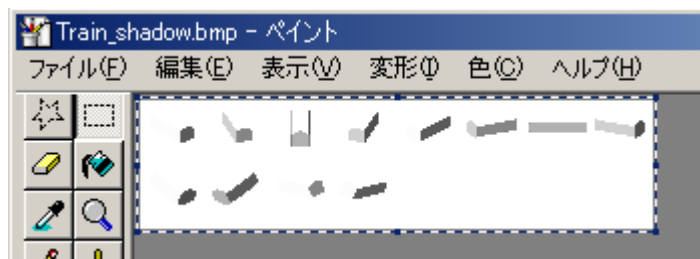
そのままコピーとペーストを行います。ショートカットキーなら[Ctrl]+[C]、[Ctrl]+[V]です。実行すると、窓部分が複製されます。レイヤーウィンドウに「貼り付けレイヤー」が新たに作成されています。窓の部分を別レイヤーにしたので、陰影効果の影響を除外することができます。



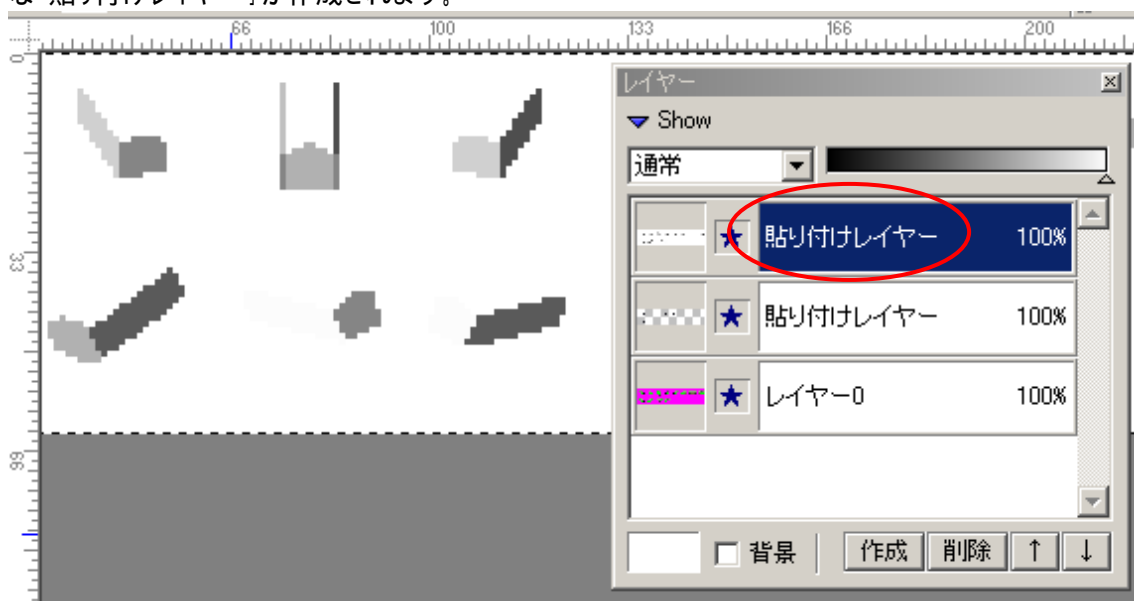
窓の位置がずれているので、下のレイヤーにぴったり合うよう移動させます。カーソルキーで微調整すると良いでしょう。



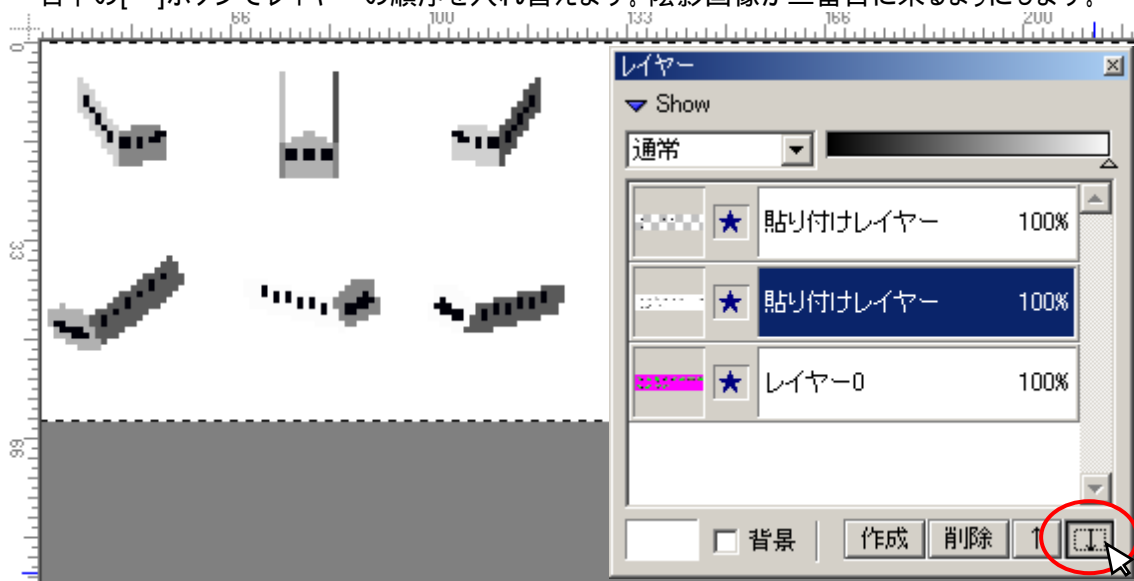
使いまわしのための陰影画像を用意します。ここでは Microsoft ペイントで陰影画像を開きました。PictBear に持っていくため「全てを選択」して「コピー」します。ショートカットキーは[Ctrl]+[A]、[Ctrl]+[C]です。



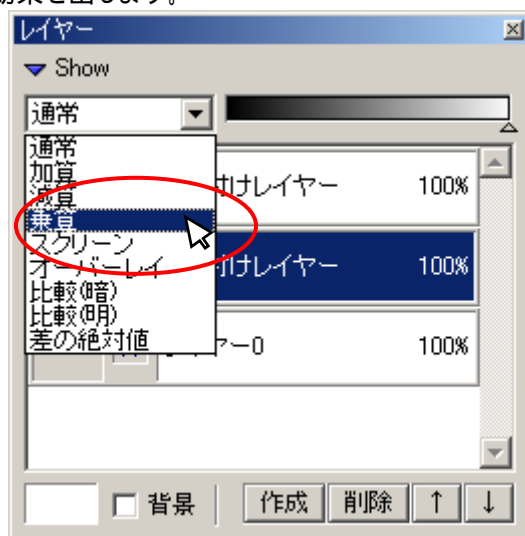
PictBear に戻ってペーストします。ショートカットキーは[Ctrl]+[V]です。レイヤーウィンドウに新たな「貼り付けレイヤー」が作成されます。



右下の[]ボタンでレイヤーの順序を入れ替えます。陰影画像が二番目に来るようにします。



最後に陰影画像のレイヤーの合成方法を「乗算」にします。これは乗算する上のレイヤーの分だけ下の画像が暗く見える効果を出します。



注意

ライトなどに窓の照明とは別の照明カラーを割り当てている場合、 ~ の手順と同じようにして別の貼り付けレイヤーを作ってください。このレイヤーを陰影画像のレイヤーより上に持って来れば、陰影効果の影響を避けることが出来ます。

完成です。ファイルに保存して下さい。

